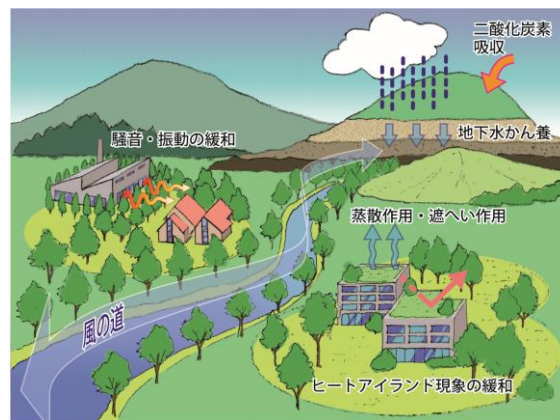


1

地球環境や都市環境を向上させます
(CO2吸収、ヒートアイランド緩和など)



みどりの 主な機能

みどりを増やすことは、
これらの機能を高め、
私たちの暮らしが豊かになることに
つながります

2

都市の防災性・安全性の確保に寄与します



3

多様な生物の生息・生育の場となります



4

レクリエーションなどの場となり、人々の
健康に寄与します



5

季節を感じさせるなど、まちの景観向上
に寄与します



みどりを増やすために私たちができること

- ・家の塀を生垣にする、庭で園芸や家庭菜園を楽しむ
- ・敷地内の樹林地の手入れをする
- ・植林活動や里山保全活動などのイベントに参加する、支援する
- ・動植物をむやみにとったり、放したりしない
- ・地元の野菜などを食べて生産者の支援をする

横須賀市経営企画部自然環境課

〒238-8550 横須賀市小川町11番地

電話：046-822-8331

Email：ne-ep@city.yokosuka.kanagawa.jp

横須賀市 緑被率

検索



横須賀のみどり

令和7年度横須賀市緑被率調査の結果

本市では、市内の「どこ」に「どれだけ」の緑があるかを把握する緑被率調査を実施しました。調査結果は、市民のみなさんがみどりを身近に感じ、親しむことができるような制度や施策を検討、推進するための基礎資料とします。

緑被率とは、みどり(樹木、草地、田畑等)で覆われた
土地の面積割合のことです。

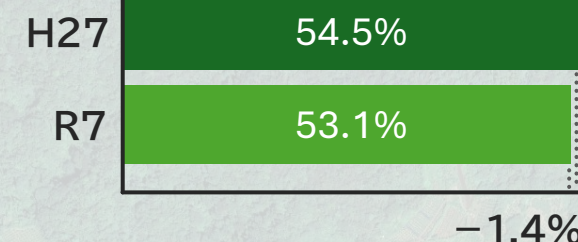
令和7年度の横須賀市の緑被率

53.1%

市域面積100.83km²のうち53.56km²が
樹林地、草地、田畑などのみどりに覆われて
います。

平成27年度から令和7年度 緑被率変化

1.4% 減少

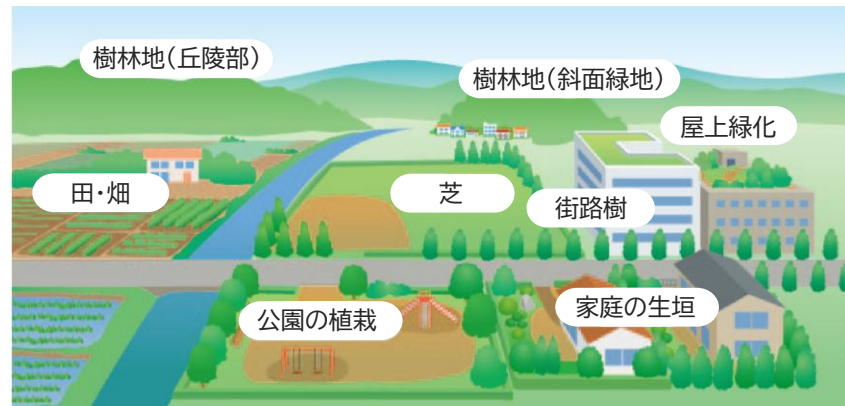


前回調査(平成27年度)と今回調査(令和7年度)を比較した結果、
緑被率は減少していました。

令和7年度緑被率調査の結果は **P.2**へ

横須賀市

緑被率とは、樹木、草地、田畑などのみどりで覆われた土地(緑被地)の面積割合です



市内のみどりの量と位置を詳細に把握するために調査を実施しました

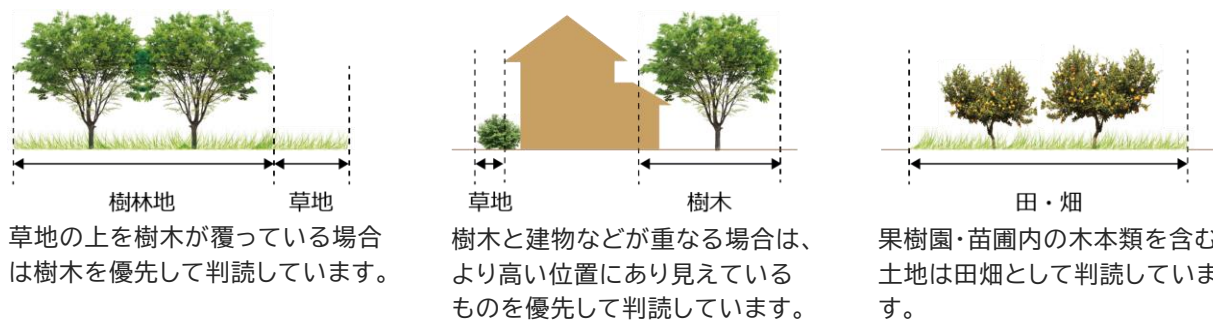
- 「みどりの量」の指標とし、みどりに関する取り組みの基礎資料とします。
- みどりの増加理由、減少理由を把握することで、重点的に取り組むべき施策を検討、実施します。
- 新たなみどりに関する取り組みの検討に活用するほか、施策効果の検証やみどりの変遷の把握に活用します。

衛星画像を利用し、最小計測面積4㎡以上の面積を有する緑被地を計測しました

- 衛星画像データをもとに、画像解析や目視により緑被地を判読抽出しました。画像解析では、植物が近赤外線を強く反射する特性を生かし、衛星画像データ内の近赤外データをもとに、自動判読を実施しました。
- 各家庭の生垣、屋上緑化等まで把握しました。

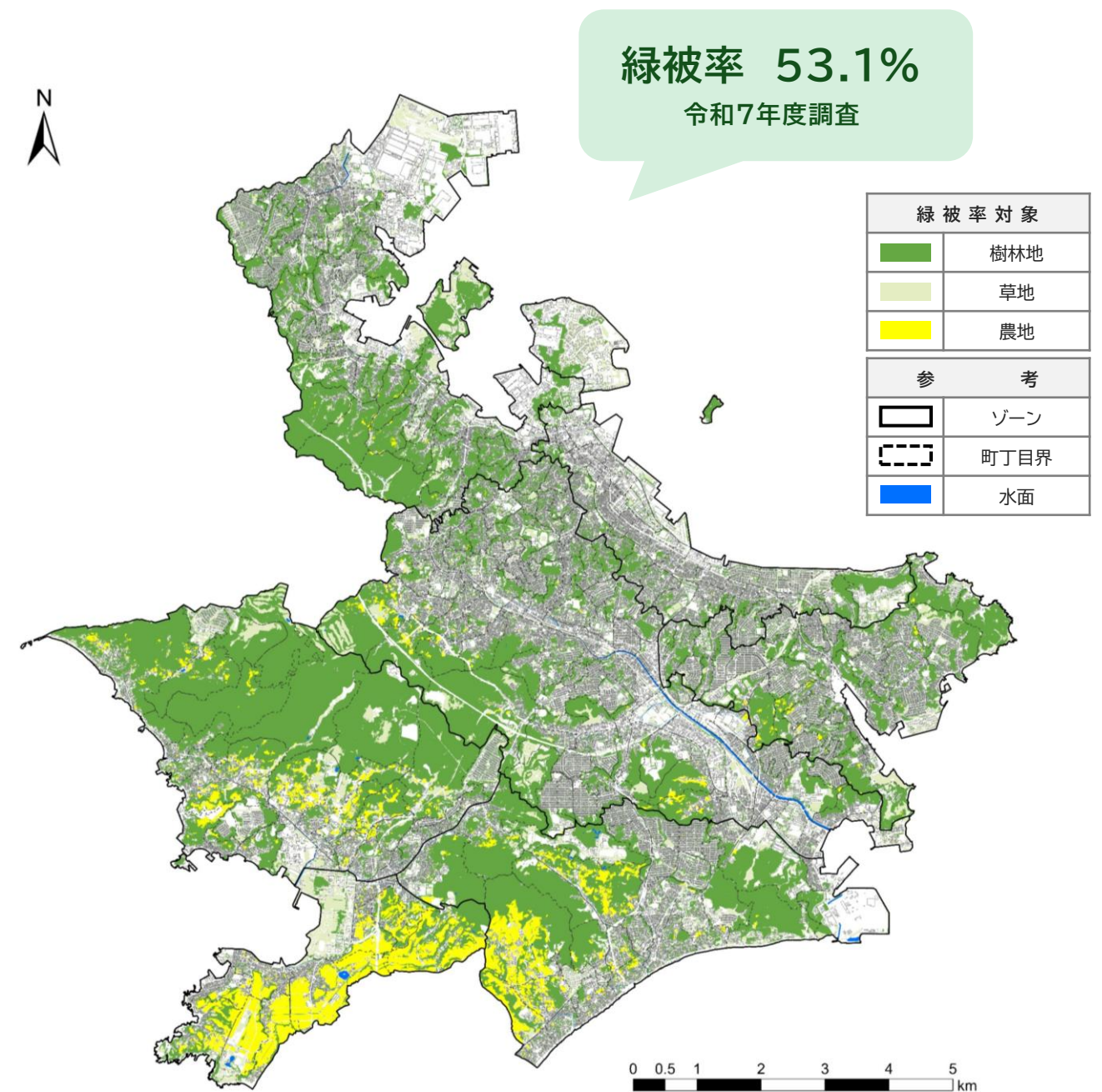
緑被判読における判読項目

樹林地	高さ概ね2m以上の樹木で被われた土地
草地	高さ概ね2m未満の樹木や草類で被われた土地
田畑	農作物が栽培されている土地(家庭菜園を含む、ビニールハウスを含まない)



市域の緑被率

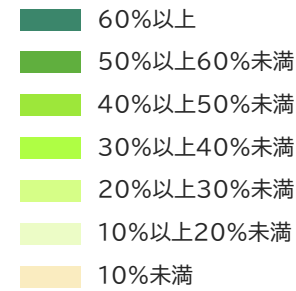
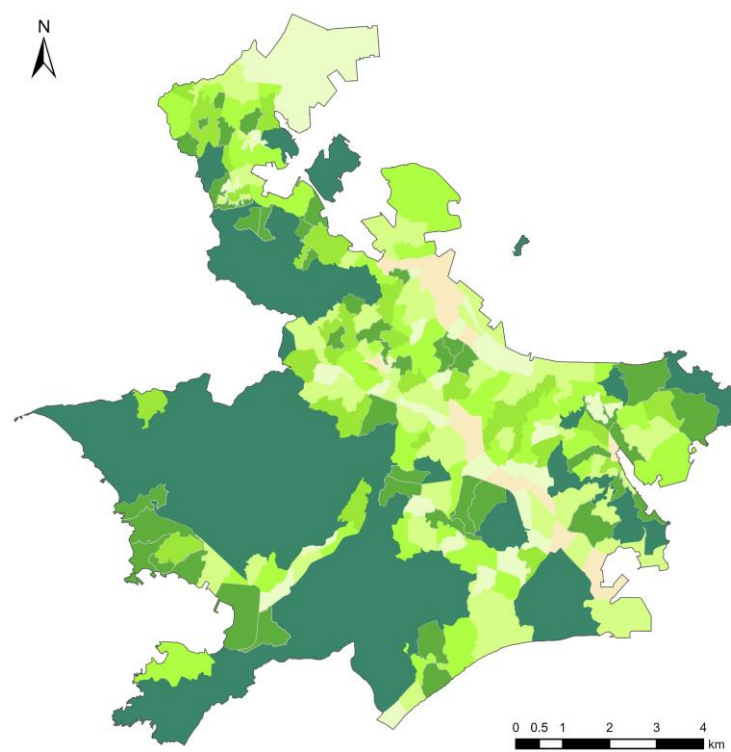
- 今回の調査は、令和5年10月に撮影された衛星画像データを用いて実施しました。(前回調査は、平成27年度に実施)
- 調査では、「樹林地」「草地」「田畑」を緑被地と判断しました。



項目	平成27年度			令和7年度		
	面積	構成	緑被率	面積	構成	緑被率
樹林地	3,866.4ha	38.4%	54.5%	4,148.9ha	41.1%	53.1%
草地	1,092.3ha	10.8%		709.7ha	7.0%	
田畑	531.5ha	5.3%		497.3ha	4.9%	

※四捨五入により合計値が一致しない場合があります

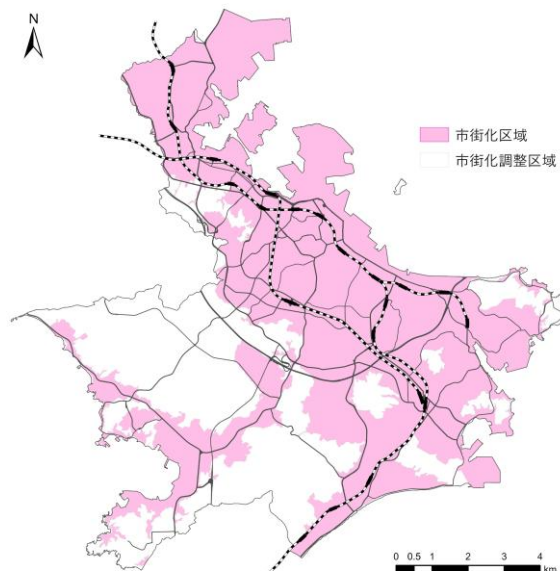
町丁目別の緑被率



- 緑被率が高いのは、大楠山周辺、田浦周辺、観音崎周辺、野比周辺、長井周辺です。主に山林を含む町丁目で緑被率が高くなっています。
- 長井周辺では農地の構成比が高く、緑被率における農地面積の寄与が高い地域となっています。
- 横須賀中央駅周辺の市街地中心地区や、平作川周辺の市街化が進んでいる地区では緑被率が低くなっています。

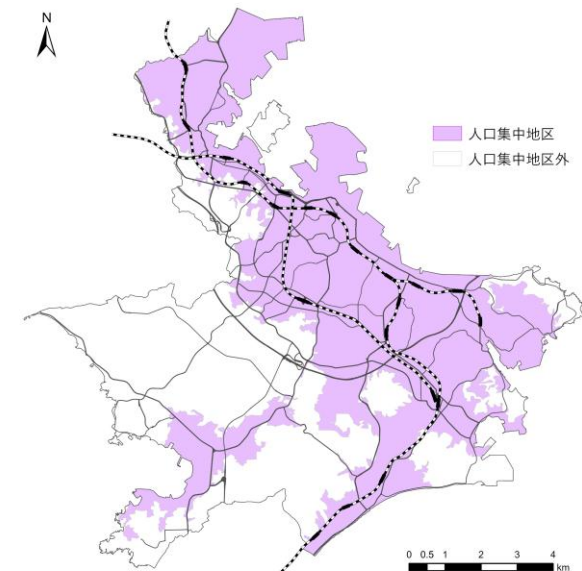
市街化区域・市街化調整区域別の緑被率

区域	平成27年度	令和7年度
市街化区域	37.5%	35.3%
市街化調整区域	85.8%	86.1%
合計	54.5%	53.1%



人口集中地区別の緑被率

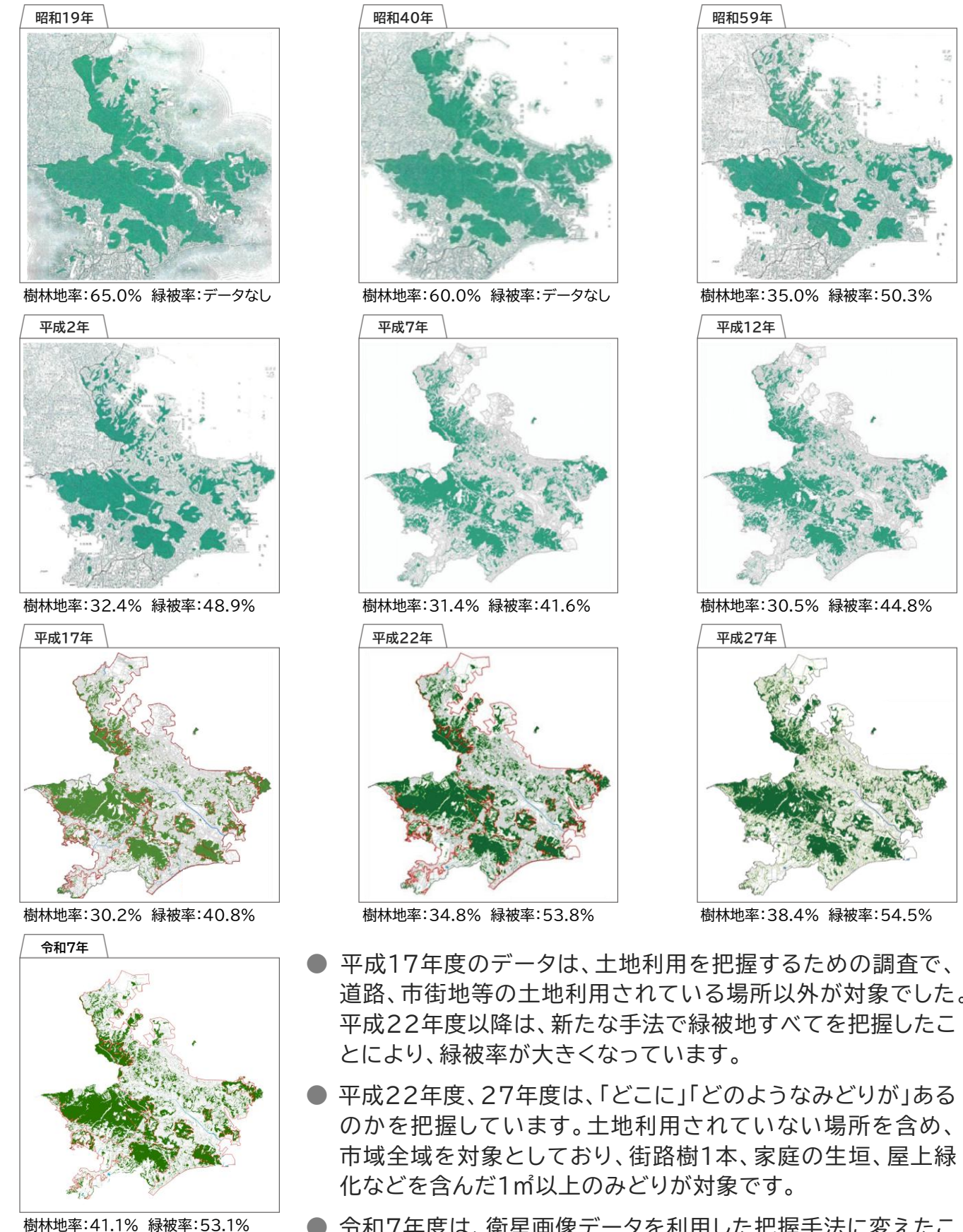
区域	平成27年度	令和7年度
人口集中地区内	33.5%	31.4%
人口集中地区外	83.4%	81.3%
合計	54.5%	53.1%



人口集中地区とは、市の区域内で人口密度の高い調査区(原則として人口密度が1平方キロメートル4千人以上)が互いに隣接して人口5千人以上を有している地域のことで

樹林地の変遷

- 傾向
- 市内の樹林地は、高度経済成長期に大きく減少
 - 昭和後期から平成初めにかけても緑被地は開発により減少



- 平成17年度のデータは、土地利用を把握するための調査で、道路、市街地等の土地利用されている場所以外が対象でした。平成22年度以降は、新たな手法で緑被地すべてを把握したことにより、緑被率が大きくなっています。
- 平成22年度、27年度は、「どこに」「どのようなみどりが」あるのかを把握しています。土地利用されていない場所を含め、市域全域を対象としており、街路樹1本、家庭の生垣、屋上緑化などを含んだ1㎡以上のみどりが対象です。
- 令和7年度は、衛星画像データを利用した把握手法に変えたことから、家庭の生垣、屋上緑化などを含んだ4㎡以上のみどりを対象としています。

前回調査との比較（１）

前回調査(平成27年度)と今回調査(令和7年度)の緑被率の変化について把握しました。

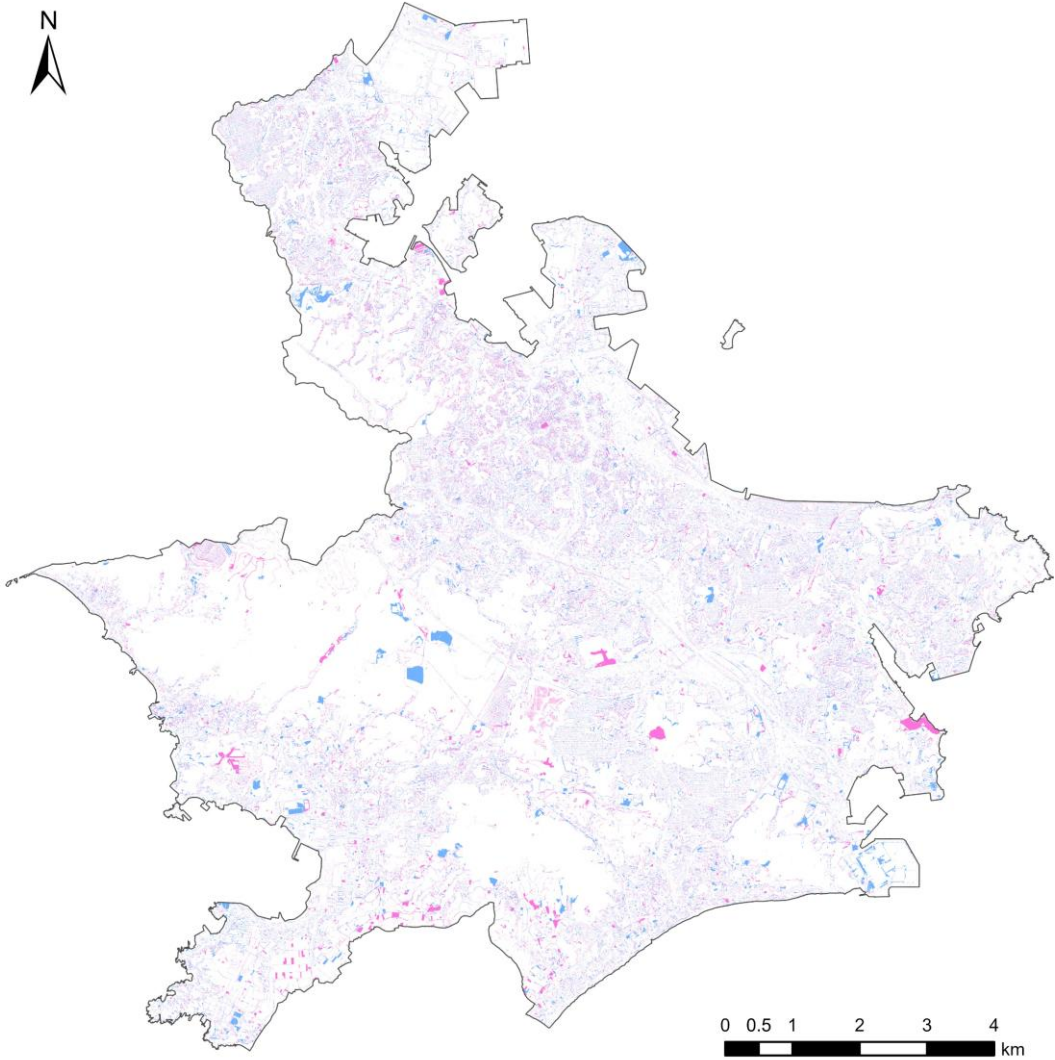
判読項目ごとの傾向

判読項目	平成27年度	令和7年度	差	傾 向
樹林地	38.4%	41.1%	+2.7%	草地が成長し樹林地として確認できた場所が増加しています。
草地	10.8%	7.0%	-3.8%	樹林地に移行したものや建物等の新設により減少しています。
田畑	5.3%	4.9%	-0.4%	ビニールハウスの新設や建物等の新設により減少しています。
全体	54.5%	53.1%	-1.4%	建物等の新設により減少しています。

※四捨五入により合計値が一致しない場合があります

緑被地の増減

- 増加緑被： 前回調査では緑被地と判読していなかった場所で、今回、新たに緑被地と確認できた場所
- 減少緑被： 前回調査では緑被地と判読していた場所で、今回は緑被地でないと確認できた場所



前回調査との比較（２）

増加緑被及び減少緑被から、緑被変化の要因を把握しました。

緑被変化の要因

緑被の増加要因

緑被の増加は、経年変化により草地が成長した例などの自然的増加のほか、前回調査にて開発途中で裸地であった場所が開発完了後に緑化された例や植林が行われた人工的な増加例、農地の管理状況の違いなどの例がみられます。

▼ 建物等の開発後に緑化が完了した例



▼ 経年変化により草が成長した例



▼ 管理状況の違いにより新たに農地と確認した例



▼ 植林が行われた例



緑被の減少要因

緑被の減少は、緑被地だった場所に宅地が開発された例や、太陽光発電施設の建設例、工場の建設等の人工的な例がみられます。

▼ 樹林地から宅地が開発された例



▼ 小学校跡地が整地された例



▼ 樹林地から太陽光発電施設が建設された例



▼ 樹林地から工場が建設された例

